

## 丹波竜脚類頭変更点

### 図中の番号に対応

- 私の線画ではprefrontal と frontalの間の縫合線が抜けていました。はっきりと縫合線と分かるように強調してください。
- 骨鼻孔が極端に大きいのはGiraffatitan固有の形質のようです。控え目にしたいと思います。あと骨鼻孔の後縁を作る上顎骨の突起は細すぎると思います。赤い線で描いたように太くしてください。
- 前顎骨の角が強いのもGraffatitan固有あるいはMacronariaの古い形質だと思います。他のTitanosarufomsではもう少し角が取れているので、そういった無難な形にしてください。
- Preantorbital fenestraはそれほど退化していないと思います。この程度をお願いします。一方、歯の背側の孔は少し小さくしてください。
- 頬骨が腹側に達して上顎骨と方形頬骨が直接接触しないのもBrachiosauridae 固有の形質だと思います。上顎骨と方形頬骨が赤線のように接するようにしてください
- Anterior surangular foramenの位置を少し後ろにずらしてください
- 歯骨の化石の後縁は少し破損していて本来の骨の後縁とは一致していません。
- お送りいただいた絵でsquamosal の後ろに一部欠損部分を補完して書いてある部分はparoccipital processだと思いますが、横から見た場合実際はsquamosalにもっとくっついていてしかもその先端部は腹側半分の突起部分しか見えません。Europasaurusの頭のレプリカの該当部分の写真をいくつかとりましたので参考にしてください。先端部は腹側半分の突起部分は丹波では壊れていますが、Europasaurusのようにヘラのような形状ではなく、下にとがった形でもう少し厚みがあると思います。
- 同じくEuropasaurusの写真をみてください。Supraoccipital の正中は盛り上がりつつ稜を形成していますが、それが側面からも見えます。丹波でもこの部分は破損をおぎなうと同じように出っ張っていたはずなので、頭頂骨の後ろ出っ張りを書いてください。
- 側頭窓の中に脳函の側面が書いてあり、縫合線が書いてありますが、丹波では縫合線は消えています。そのかわりに三叉神経の出口とその前背側に伸びる稜を書いてください。
- この部分はGiraffatitanの特定の標本を参考にされたと思いますが、視神経の出口がきれこみになっているのはこの標本固有の特徴です。赤い線で描いたように視神経の出口は丸い穴にし、orbitosphenoidを前のほうに

伸ばしてください。

- Parasphenoidの形も上記Giraffatitanの特定の標本の特徴が出すぎています。赤線のようなもっと一般的な形にしてください。
- Pterygoidとpalatineの形を少し背側に広げてください。
- Quadrate と pterygoidを腹側にも拡大してください。ついでに上顎骨の後縁の腹側にectpterygoidと pterygoidの腹側への突出部分を控え目でいいですので書き加えてください
- 環椎は化石として産出しています。現物の写真とGilmore 1933のfig.7それとKsepka and Norell (2006)のfig.3を参考に書いてください。Gilmore 1933の図と比べるとすぐわかると思いますが、丹波では椎弓の付け根だけが残っています。Mongolosaurusでも椎弓の後ろ半分以上が無くなっています。Erketuでは非常に長く後ろに伸びていますが、控え目にこの半分ぐらいで欠損部分を復元したら良いと思います。